

**ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
取組の概要と選定委員会からの主なコメント**

代 表 校 名 (連 携 校 名)	弘前大学 (秋田大学) 計 2 大学
事 業 名	多職種連携と DX 技術で融合した北東北が創出する地域医療教育コモンズ
事 業 責 任 者	理事 (教育担当) 郡 千寿子
事 業 の 概 要	
<p>2045 年までに急激な人口構造変化が予想される我が国において北東北は人口減少・高齢化先進地域となる。北東北国立大学医学部 2 校および青森県内医療系私立大学 2 校が連携し、多職種連携教育を基盤とした総合的に患者・地域住民を診る資質・能力を持つ医療者教育により持続可能な地域医療共同体を北東北に構築する。参画 4 校の教育資源を医学教育クラウドプラントで共有し、医学教育専門家が多職種連携の要素を組み込み青森県と秋田県内で運用できるように精錬する。このプロセスを通じて北東北で共有可能なオンデマンド教材や教育プログラムなどの教育資源 (地域医療教育コモンズ) を創出し、北東北地域でのニーズの高い総合診療・感染症・救急・集中治療に長けた地域医療のリーダーを育成する。さらに AI にこのプロセスを学習させて、地域医療教育コモンズ創出 AI を開発し、DX 化された地域医療教育パッケージ化を北東北全域及び日本国内に提案する。</p>	
選定委員会からの主なコメント ○ : 優れた点等、● : 改善を要する点等	
<p>○東北地域という医療過疎の進む地域において地域医療を支えるためのプログラムであり、本事業の目的にも合致している。</p> <p>○多数の地域枠学生を地元に着定させてきた実績を高く評価する。上記と重ならない範囲では、遠隔医療について、どの程度の学びが必要であるかを過去の経験に照らしてプログラムに活かしている点が評価できる</p> <p>○最も横展開を意識した申請となっている。</p> <p>○全ての医学生が卒業までに防災士資格を取得する計画や、青森県と秋田県の救急専門医数とインフェクションコントロールドクター認定医数を 3 倍にする計画は斬新であり意義深い。</p> <p>○北東北医学教育オンラインプラットフォームクラウドを構築し、教育プログラムを精錬しながら多職種連携の要素を組み入れる具体的な教材創出方策が示されており、実現性の面で期待が持てる。</p> <p>●感染症のトレーニングについての記載が具体的ではなく、詳細が不明である。</p> <p>●弘前大学医学部に本事業専属部門としての地域基盤型医学教育センター(仮称)を新たに設置し、専従教員および事務職員を採用する点は理解できるが、連携校での実施体制が不明瞭であり、実現可能性に不安が残る。</p> <p>●Moodle をプラットフォームとするように計画されているが、独自に構築するサーバーとの関連や運用コストの面で継続性に不安が残る。</p> <p>●地域医療に必要とされる総合診療医、救急専門医、感染症専門医が現状、極端に少ない理由が分析されていない。そこが明確にならないと、卒業生のキャリア形成の実現性に疑問符がつく。</p>	